

マレーシア現代建築の成立過程におけるナショナリズムの影響

宇高 雄志

広島大学工学部建築計画学 助手

〒739-8527 東広島市鏡山1-4-1

E-mail: utaka@hiroshima-u.ac.jp

山崎 大智

広島大学大学院工学研究科環境工学専攻 大学院生

〒739-8527 東広島市鏡山1-4-1

E-mail: daichi28@hiroshima-u.ac.jp

1. マレーシアのナショナリズムと現代建築

1963年、マレーシアは150年におよんだ大英帝国支配から解放され新生国家として独立を果たす。マレーシアをはじめ第二次大戦後におけるアジア諸国の独立劇は、アジアにおける西欧列強諸国の植民地支配からの解放の時代の到来であった。しかし一方で、マレーシアは大戦以降の経済危機と民族間関係の不安定、独立紛争の後遺症ともいえる共産ゲリラ鎮圧の泥沼化など、新生国家マレーシアを悩ませる課題は山積していた。独立国家として成立したとはいえ、政治経済システムのすべては、旧宗主国英国のそれを踏襲した。混乱のつづく新生国家マレーシアにとっての近代化とは、英国社会史の文脈の上には見いだせなかったからである。また多様な文化が並存する多民族社会において、多民族国家での国民形成(nation building)は困難であった¹。むしろ、国民の多くが歓喜した独立劇は、新たな困難に直面するきっかけともなった。こうした状況下でマレーシア人建築家達は時代に翻弄されつつも建築しつづけた。

本論ではアジアナショナリズムの勃興の過程で、旧宗主国の影響を強く受けながら成立する、独立期以降のマレーシア現代建築の意匠への影響を論ずる。

2. マレーシア国民文化と現代建築の関係

マレーシアは、独立過程でマレー系民族が政治的に優位に立ち、後の1971年からはマレー系優先政策(プミプトラ政策²)がとられている。これに先だって制定された「国是」(Rukun Negara: 1970年制定)では信仰の自由など多様な民族文化の存在を容認した多元文化主義をとりつつも、国教としてのイスラム教の重視や、スルタン(Sultan)制の尊重などが謳われた。1971年には国民文化としてイスラム教やマレー系³民族文化を中心に据えた国民文化政策案を決議した。これによって同国を代表する国民文化としてマレー系文化が選定された。同国の国民文化政策は、国民文化はマレー系民族文化に基づく、適切な他民族文化要素は国民文化の一部に受け入れる、国民文化の発展過程にはイスラム教を中核に据える。以上を基本指針として施行されている。

こうして決定された国民文化は、非国民文化としての中国系・インド系の民族文化の存在を多元文化主義の下で容認しながらも、強力にマレー系の民族文化を経済的にも後押しして文化振興を行うものであった⁴。政策的に認定された国民文化としてのマレー系の民族文化は、国語、国旗、公的教育、国家宗教などにも反映した。スルタンはイスラム法上の王として「象徴」化されたが、マレーシア国教と一致することや、莫大な財産を有

することもあり国民生活に影響を及ぼすことになった。これらは、非国民文化としての他の民族文化との差別化を目指すものであり、非マレー系民族のエスニシティとしてのマレー化をゆるやかに促すものであった。

これらの経緯は、英国の植民地支配でのマレー王権の懐柔政策の結果と説明され、他にも人口の上で有利なマレー系民族集団の数の論理と、マレー系民族の先住権の反映であると政治的に理解されている⁵。一方では、中国系やインド系が、言語や信仰宗教団体のうえで福建や広東といったサブ・グループにさらに並存・分立されることもあり、いわゆる「マイノリティ」としての政治対抗勢力として協同しなかった事も大きい⁶。

マレーシア独立にあたり策定された文化政策は、基本路線や政策フレームに英国の文化政策を踏襲している。独立以降に目指されている文化政策は、英国に「あって」、マレーシアに「ない」政策要素を補填する作業であった。ひいては、マレー系民族文化を英国社会をひな形にして解釈し再構築する過程であったともいえる。ここでの文化政策の要素は、国旗、エンブレム、国民憲章、国王、国教、国花、国是、国教会、国会、国語、勲章がそれであり、本来ならばイスラム文化には存在しない、図化された象徴性の確立が目指され、国民文化をになう可視化された国民のシンボルが生成された。

故に独立期当初は、積極的に大英帝国支配の事実そのものを否定し、マレー王制を復古するべく顕彰する動きが見られた。しかし、それが現実的な経済振興の上での効果を生まず、また社会の近代化に向かわないことが問題視され、自ずと英国の社会開発モデルを踏襲することになる。新生国民国家の政策フレームが植民地治世に定着した社会システムにのっとって行われる以上、マレーシアにおける国民文化の生成は、英国の植民地政策に準拠したマレーシアの植民地史をイスラム史観で総括することでもあった。

一見して収斂することのない、支配者としての英国の歴史と多民族社会としての民族の歴史の空隙を埋める作業が国民文化の担い手としての文学・絵画・音楽・舞踊・映画、そして建築などの創作者たちに期待されたのである。

マレーシアに限らず、一つの民族文化を国民文化として確立するには、積極的な民族文化の再解釈が必要となる。多くの場合、それらは既存の民族文化から積極的に抽出され、国民文化としての妥当性や異民族文化と比較した優越性が強調される。その際、選定された文化要素として服飾、建築、紋様などの意匠要素が抽出され国民文化として適合させる。こうした文化要素の強調が国民文化の確立過程では不可欠であり、いかに多数の文化要素を抽出し、独自性・固有性を証明するかが課題となる⁷。

それ故、マレー系民族文化による国民文化の確立には、イスラムやマレー習慣法(adat)を再認識し再構築する必要があった。マレーシアの場合、歴史的にもマレー系の民族文化の多くは都市ではなく「村落」にあり、村落に見る生活文化や村落の空間構成そのものがマレー系民族文化そのものであるとされる。しかし、マレーシアでは、歴史的にも民族集団毎に、中国系は都市部に居住しマレー系は農村部に居住する空間的に分断された状況下にある⁸。よって、同国にとっては都市社会の民族混住化を進め、民族の融和のシンボルとなる都市空間を形作ることが重要となる。そこで重視されたのが、マレー系民族文化を国民文化として表現することである。

以下に、これらの社会的状況下でのマレーシア現代建築の成立過程と、ナショナリズムの関係について、建築物や都市空間の意匠分析と建築家の活動を通じて考察する。

3 - 1. マレーシア現代建築におけるモダニズムの影響

1950年代に入り英国はマレーシアの独立を本格的に検討し始める。マレーシアでは歴史的にも英国建築家が活躍し、英国の都市計画制度を定着させようとした。都市計画家 C. C. Readeをはじめ、マレーシアの近代都市や建築は英国人技術者に担われた。その際に目指される国土開発のひな形は英国における国土開発のものであった。マレーシアでは加えて、特に民族間の経済格差の是正が重要であった。

マレーシアの近代都市建設は英国近代都市から

の「遅れ」を縮める作業であった。独立後も「第一世代」と呼ばれるマレーシア人建築家には、英国への留学によって、英国的な近代都市を再現する技術を身につけることが求められた。

こうして、植民地支配以前から活躍した外国人建築家や、1950年代からの英国留学を終えた若手建築家の帰国とともにモダンスタイル、インターナショナルスタイルといった新しい建築様式がマレーシアでも広まり始めた。それまでのマレーシアの建築物といえば、英国の植民地支配の下で建設されたラジャスタイル (Raja style)、アールデコ (Art deco) などが主流で、外国人建築家のオリエンタリズムから強い影響を受けていた。

モダン建築の影響は徐々に現れた、1963年の独立直後、混乱下にあったマレーシアにおいて、在来型の建築様式と比べ、当時は建設コストの高いモダン建築は開花しなかった。初期のモダン建築は、個人高級住宅や FELDA (連邦地域開発) の際の農村仮設住宅に見られる程度で、彼らは力を発揮する場を失う事になる。

1970年代にはいと工業化による建材の供給が可能になったこともありモダン建築はマレー半島でも大量に建設され、公共建築物から住宅まで広い範囲で次々と導入されていった。政治的にもマレーシアの政治体制の合理性と機能性の象徴として急激に広まっていった。

当時のモダン建築による都市建設は、混乱を脱して、国民全てが開発成果を享受でき視覚的に実感できる具体像としての役割を担った。従来の様に民族毎に建築様式が分断する構図を乗り越えた、国民様式として認識されたのである。

しかし、1969年に起こる大規模な民族間紛争を契機に、民族間の経済格差¹⁰⁾の是正が論議を呼び、マレー系優先政策が1971年に成立する。この混乱の過程で、国民文化としてマレー系民族文化が位置づけられたためマレー文化やイスラム様式を導入した建築様式へ傾倒し始める。

3 - 2 . マレーシアにおけるモハメダニズムの影響

「モハメダン (Mohamedan)」は、ヨーロッパのキリスト教徒によって、他者としてのイスラム

教徒を呼称する際に定義されたものである。

モハメダン建築の定義は、マレーシア建築協会が出版している "POST-MERDEKA ARCHITECTURE (Devid teh 1987)"¹¹⁾に明確に示されている。そこには「ヨーロッパの建築様式やモダン建築にイスラム要素が積極的に導入されたもの」という記述が明確な定義を与えている。

従来、モスクなどにみられるイスラム建築意匠では船形アーチや、球根状のドーム、アラベスクなどで幾何学曲線がもちいられ、装飾要素としてイスラム美術に見るカリグラフィーが多用されている¹²⁾。



写真 1

National Mosque, 1965, Kuala Lumpur, Jabatan Kerja Raya.

モハメダン建築の代表例。イスラム文化をモダン建築を用いて構築し、その要素は、レイアウト、屋根、装飾と手法が様々である。

しかしモハメダン建築では、これらの幾何学曲線を用いず、配置計画を含めてより単純化される場合が多い。モハメダン建築の代表例とされる、国立モスク (設計: Jabatan Kerja Raya, 竣工: 1965年) (写真 1) は従来のラジャスタイルなどで普及していた幾何学的な曲線や傾斜屋根のデザインを、初めて一切排した作品である。国立モスクでは、大屋根の水平感を強調し、通常、多くのモスクに見られる球根型のドームも見られない。モスクの立面の装飾性を極限まで廃し、平面的にも矩形の室を機能的に配置している。そこへ、鋭角的に天を突くミナレット (尖塔) と大ドームを配し、水平性と垂直性のコントラストを際立たせている。

同じ時期に建設された高層商業建築物の

Dayabumi Complex (設計: BEP + MAA Akritek Sdn., 竣工: 1984年) (写真2) は1階部分には鋭いアーチ (写真3) を使い、そして壁面格子には細かなイスラム紋様によるモチーフ (写真4) を取り入れた。



写真2

Dayabumi Complex, 1984, Kuala Lumpur, BEP + MAA Akritek Sdn.

1984年に政府の援助を受けて完成した。平面、外観、細部装飾にイスラムの影響が強く表れている。



写真3

Dayabumi Complex
1階部分にみられる尖塔アーチのエントランス

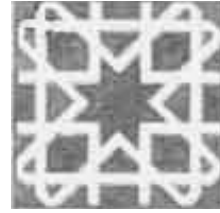


写真4

Dayabumi Complex の壁面を埋める幾何学模様のスクリーン



写真5

Bangunan LUTH, 1986, Kuala Lumpur, Hijja Kasturi Associates Sdn.

イスラムの教えは信仰面と実践面の両面から構成され、双方は車の車輪のようなものと考えられている。前者は六信、後者は五行から成り立ち、この建築物を支える5つの大柱はその五行を表すものである。

Bangunan LUTH (設計: , Hijja Kasturi Associates Sdn., 竣工: 1986年) (写真5) においては、イスラム要素の影響が Dayabumi Complex のように装飾的であるのに加え、その5本の外部の柱がイスラムの5行を象徴した平面計画になっている。装飾的要素だけではなく、より大きな空間スケールにもイスラム要素が多様されている。

マレーシアでは、独立当初、モダン建築の建設に多くの力が注がれるが、それに並行して民族文化に注目したモハメダン建築様式が成立する。こ

ここでは旧宗主国のもたらした、コロニアル建築やモダン建築様式を、基本的には否定することなく、イスラム文化をデザインの基本的原理として読み替えている。

一方で、モハメダン建築が生み出される際に重視されるのがイスラム教の教義の再解釈である。やもすれば原理主義に陥りがちな危険性をはらみながら、メッカやアラブ諸国におけるイスラム都市の建築思潮を吸収しながら共時化させる作業が繰り返された。イスラム世界の近代化をマレーシアにおける国家開発モデルで先取りすることが目指されるのである。

しかし、こうしたモハメダン建築のづくり手は本来のイスラム文化の担い手であるマレー系建築家だけではなかった。クアラルンプールの多くのモハメダン建築は、英国などで建築教育を受けた中国系や外国人の手によるものであった。彼等の多くは西欧社会で身に付けたモダニズムと、母国の国民文化を比較的に第三者的に受け止めている。またポストコロニアル的視点でマレーシアの多民族社会やイスラム文化を客観的に解釈しつつ、建築表現に無用なナショナリズムを付加することなく建築を造りだした。

非マレー系建築家が、自ら創り出した建築物を、第三者的にヨーロッパのキリスト教徒的視点で「モハメダン」と呼ぶ状況には、ある種の体制への迎合とも読みとれるが、一面では、自らの民族意識に触れずに、マレーシア国民として創作する姿勢が読みとれる。

近年、竣工した The Petronas Twin Tower (設計: Cesar Pelli & Associates Inc. 竣工: 1998) (写真6) の2本の塔の平面はイスラム装飾の特徴である幾何学模様 (写真7) を取り入れた構成になっている。

このようにして、建築の空間構成のミクロからマクロに至る全ての空間スケールでモハメダニズムによる機能的操作が行われた。もちろん全数的に見ればマレーシアの建築も、現在では圧倒的な多数をより経済的に合理的なモダン様式に頼っている。しかしこれらの空間構成はさらに空間スケールを拡大し、住宅団地の配置計画など新都市の土地利用計画にも反映されている。



写真 6

The Petronas Twin Tower, 1998 Kuala Lumpur, Cesar Pelli & Associates Inc.

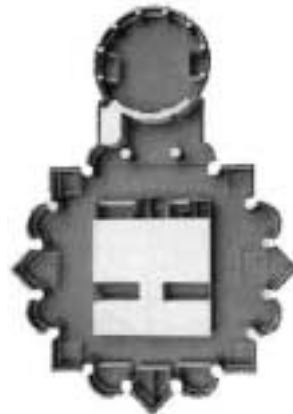


写真 7

The Petronas Twin Tower の平面図。イスラムの装飾によく使われる、幾何学的な模様を模してある。

3 - 3 . マレーシア現代建築におけるパナキュラリズム

マレーシア建築史においては、前述したようにイスラム世界を中心にした歴史の再解釈を行い、かつ英国建築に代表されるモダニズムが建設される必要があった。しかし、マレーシアでの都市社会においては、マレー系民族文化に裏打ちされる建築様式や生活様式は限られている。そのため都

市文化として成立するマレー系民族文化の発掘が求められた。

現在でも、多くのマレーシアの大学において、マレー系の民家や王宮建築研究へ多くの労力と関心が注がれている。一方ではマレー系王の統治した「まぼろしの」王都の探索が目指されている。独立した国家として旧宗主国である英国文化やモダニズムを超越し、かつイスラム文化に重点をおいた建築のデザインが目指されるのである。

独立以降、スルタンは政治的に象徴化している。そのため直接的にはマレー系王国の成立と建築様式の生成を、歴史のメインストリームとはせず、当時、ヨーロッパで注目されつつあったバナキュラリズムとしての、マレー系の伝統的民家住宅の解釈がなされるのである。

英国文化振興会（設計：Jabatan Kerja Raya、竣工：1957年）（表1）は、屋根の軒先に伝統的マレー系民家建築の意匠要素を取り入れている。同じく国立博物館（設計：Ho Kwong Yew & Sons、竣工：1963年）（表1）ではデフォルメされた巨大なマレー系民家建築のモチーフが立面全体に用いられている。Bangunan Bank Bumiputra（設計：Kumpulan Akitek、竣工：1980年）（表1）は高層の近代的なビルと、前部低層建物の伝統的マレーハウスの形を取り入れたモダン・バナキュラー建築からなる。この建物が完成した1980年代はマレーシアにおいては高度成長期が始まった頃であり、オフィスビルは近代的なタワーの建設で高さを競うように高層ビルの建設が進んだ。Putra World Trade Centre Complex（設計：Kumpulan Akitek、竣工：1985年）（表1）にもその傾向は同様にあらわれ、伝統的なマレー宮殿の形のコンベンション・ホールはガラスで覆われている。この建築物においては、国家のアイデンティティーの表象は前部の建物に限らず、後部のタワーの装飾などにもあらわれる。

またマレー系民族文化でも民家建築様式以外の文化要素を公共建築に取り入れたものもある。首都クアラルンプールの郊外にある National Library（設計：Kumpulan Akitek Sdn., 竣工：1996年）（表1）は、マレー国王の帽子の意匠が建築意匠に取り入れてある。図書館という建築計画的な施設機能を疎外しつつも、伝統的な帽子の巨大化は、

しばしばアンバランスでキッチュだと評される。

このように多くの模写の対象となる伝統的なマレーハウスの屋根の形であるが、建築意匠には各々の地域による地域文化に基づいた建築スタイルがある。



写真 8

1700年代後半のマレーハウスの復元民家。屋根がアタップ葺き（椰子葉）である。
（ヌグリスンピラン州）



写真 9

コロニアル以降の1800年代におけるマレーハウスの復元住宅。屋根が瓦になっている。
（ヌグリスンピラン州）



写真10

セレンバン市内にあるオフィスビル。与党事務所や銀行などが入っている。
（ヌグリスンピラン州）



写真11

セレンバン市，市庁舎。ネグリスンピラン州のマレーハウスを模したバナキュラー建築。
(ヌグリスンピラン州)



写真12

マラッカ州の伝統的なモスクの様式
(マラッカ州)



写真13

その外観を模して造られたマラッカ州立モスク
(マラッカ州)

これらのバナキュラー建築の建築意匠的要素は，独立以降の建築思潮におけるナショナリズムの影響を反映してか，年々強調される傾向にある。例えばヌグリスンピラン州の伝統的なマレー民族の住居は，従来は写真8のように，屋根のそりは緩やかな物であり，後の瓦葺きに至っても（写真9），棟の反りは強調されていない。しかし，それが（写真10，11）のような近年建設された公共建築や事務所ビルや博物館に至っては，地域の民

家様式や伝統的意匠には見られないほど，意匠の強調がなされている。また，しばしば，同州の人類学的な系譜とされる，インドネシア・ミナンカバウ地方の民家形式の模写も見られる。

マラッカ州のモスクはマレーシアのそれとは違った独自のスタイルを持っており，これもしばしば公共建築の意匠に導入されている（写真12,13）。

このようにバナキュラリズムは，社会の近代化にともなって一様に減衰するのではない。むしろ社会的要請をもって「発見」されてゆくのである。

マレーシアにおいてはモハメダニズムが国教としてのイスラムを社会開発の中で位置づけ振興する動きであるとする，モダンバナキュラーは個々の地域単位でのマレー文化を振興する動きである。地域の代表的文化としてマイノリティー文化をも一括して総括したものであるといえる。

マレー系村落の集住形態や建築意匠を具体的な建築空間に転写し具体化することで国民様式としての国民文化の確立を目指しているのである。

表 1 その 1 , 独立後のマレーシアにおける社会・経済と建築様式の変遷






Age	General	Architecture
1941	In December 8th, The army of Japan land an east shore of the Malay peninsula. An outbreak of the Pacific War.	 Modern style Federal House, Kuala Lumpur, 1951 B.M.Iversen This building is the best early example of International Style architecture in Malaysia. 6-p.103
1942	In February 15th, The army of Japan occupy Malay peninsula, Singapore and North-Borneo.	
1945	Japan unconditionally surrender.	
1946	England announce officially the plan of Malaya Union. But the people of Malay rebel against England. So the plan fail. UMNO (United Malays National Organisation) and MIC (Malaya Indian Congress) organise. The North-Borneo is Colonial of England.	 Modern Vernacular style The British Council Building, Kuala Lumpur, 1957 K.C.Duncan of PWD. 1-p.240
1948	The Federation of Malaya make a start.	
1949	MCA (Malaya Chinese Association) organise.	
1955	The first general election is opened.	 Modern Vernacular style Museum Negara (National Museum),Kuala Lumpur,1963 Ho kwong Yew & Sons The National Museum was built as a showpiece for the newly independent country, as Malaysia's then prime minister, Tunku Abdul Rahman, was directly involved in the approval of its design. An early design of a Western style structure by an architect of the PWD was rejected, after which the commission was granted to Ho Kok Hoe of the Singaporean firm Ho Kwang Yew and Sons. 1-p.210, 2-p.57. 3-p.126. 4-p.79
1956	The London negotiation.	
1957	The Federation of Malaya is completely independent from England. Tengku Abdul Rahman is installed to The First Premier.	
1958	England admit to the autonomy of Singapore.	 Mohamedan style Masjid Negara, Kuala Lumpur, 1965 Jabatan Kerja Raya The Building is constructed of reinforced concrete, faced with Italian marble. The Grand Hall is covered by a folded-plate roof while the surrounding galleries are topped with numerous small domes. The design is a contemporary statement of traditional Muslim decorative art. using abstract geometric patterns in its grillwork and bands of Koranic verses in the decoration of the grand Hall and its Mihrab. 1-p.238, 2-p.39, 2-p.54, 4-p.80
1963	Malaya, Singapore, Sabah and Sarawak establish The United states of Malaysia.	
1964	United Nations Conference on Trade and Development(UNCTAD) established.	
1965	Singapore separate from The United states of Malaysia, and is independent.	 Modern style KOMTAR, Penang, 1976-1987 Jurubena Bertiga International Sdn. An extensive "city within city" redevelopment project in the heart of Penang Chinatown, it comprises a hotel, a 65-story office block, shopping facilities and residential unit. The podium attempts to link to the context of its surrounding Shop-houses. Besides the "Buckminster Fuller" geodesic dome, it is landmark. 1-p.317, 2-p.96
1967	ASEAN organise.	
1969	The May 13th Incident.	
1970	Abdul Razak is installed to The Second Premier. Malaysia's major trading partners are the EU, Japan, Singapore and US.	
1971	The Premier Abdul Razak proclaim The policy of BUMIPUTRA.	
1972	National Front is established.	
1976	Fusein Onn is installed to The Third Premier.	
1977	Asean Preferential Trading Arrangement(PTA), to encourage intra-Asean trade, comes into force.	
1979	Manufacturing is Malaysia's largest export earner, surpassing rubber, palm oil, tin and other commodities.	
1981	Mahathir is installed to The Fourth Premier. He proclaim Policy Look East.Malaysian government announces "Buy British Last" policy in retaliation against decision of British Government to raise university fees for foreign students. Policy ends in 1988	
1982	Launching ceremony for first MAS Boeing 747 at Terminal 2, Subang.	

表 1 その 2 , 独立後のマレーシアにおける社会・経済と建築様式の変遷




Age	General	Architecture
1983	Government announces privatisation policy. Private companies allowed to collect toll, construct, operate and maintain new roads, and upgrade existing roads.	 <p>Modern Vernacular style Bangunan Bank Bumiputra, Kuala Lumpur, 1980 Kumpulan Akitek It consists of a front podium. Banking Hall and a tower office block behind. It represents an extreme approach of giving modern buildings a Malaysianised flavour by adopting a traditional Malay house form, with rich ornament and details. A small plaza in front contributes to the design of the area. 1-p.301, 2-p.106</p>
1984	Bukit Kayu Hitam-Jitra section, first newly-built section of NSE, completed. Opens to traffic a year later. Beginning of venture capital with establishment of Malaysian Ventures Bhd.	
1985	Listing of Malaysian Airlines System, first privatised company.	
1986	Uruguay Round of GATT talks begin. Formation of Highway Concessionaires Bhd. Government announces award of NSE concession to UEM. Container terminal at Port Klang is privatised to Klang Container Terminal, first major port facility to be privatised.	 <p>Mohamedan style Dayabumi Complex, Kuala Lumpur, 1984 BEP + MAA Arkitek Sdn. Probably one of the most ambitious Development projects undertaken by the Malaysian Government, the complex consists of several building, including an office tower, a shopping arcade and Post Office building. The overall aesthetics of the complex is unified by an elegant screening grille with Islamic motif which acts as a sun-shading device as well. 1-p.305, 2-p.117</p>
1987	Langkawi declared a free port.	 <p>Mohamedan style LUTH Complex, Kuala Lumpur, 1986 Hijja Kasturi Associates Sdn This building is the headquarters of the Pilgrimage Fund Board (LUTH). Its unique and hold commanding form has a visual impact on Kuala Lumpur's skyline. The 'corsetted' form refers more to sculptural symbolism with the five external Pillars Symbolising the pillars of Islam. 1-p.312, 2-p.133</p>
1988	Concession agreement between government and UEM signed. Highway Concessionaires changes name to PLUS, and takes over construction and maintenance of NSE from Malaysian Highway Authority. Construction of New Klang Valley Expressway (NKVE) begins.	
1989	Asian Pacific Economic Cooperation (APEC) established as informal dialogue group.	
1990	Malaysia signs first biateral payment agreement (BPA), aimed at promoting trade with South-South nations, with Venezuela.	 <p>Modern Vernacular style Putra World Trade Centre, Kuala Lumpur, 1987 Kumpulan Akitek Sdn Bhd</p>
1991	EAEG renamed East Asian Economic Caucus (EAEC)	
1992	SITTTDEC headquarters established in Kuala Lumpur. KTM is corporatised, with intent of privatisation later.	 <p>Tropical style Menara Mesiniaga, Subang Jaya, 1992 T.R.Hamzah & Yeang Sdn. Bhd This 14-storey building is an early example of high-rise tropical design in Malaysia. Lift lobbies, stairwells and toilets on all floors are ventilated and lit naturally. Plants spiral up the side via a succession of recessed terraces. Windows on the east and west sides, which face the sun, have external louvers as sun-shading. 6-p.125</p>
1993	Privatisation of Malaysia- Singapore Second Crossing and Shah Alam Expressway projects.	
1994	Construction of North-South Expressway Central Link and KLIA Expressway begins.	
1995	WTO formally established. GATT 1947 comes to an end.	 <p>Modern Vernacular style The National Library, Kuala Lumpur Kumpulan Akitek Sdn Bhd 1996 The design of this building alludes to the traditional Malay folded brocade headgear. 6-p.130</p>
1996	Port Klang's West Port declared a free commercial zone.	
1997	Malaysia joins information Technology Agreement (ITA), which involves tariff elimination for a wide range of IT products.	
1998	Star-LRT becomes fully operational with launching of services from Jalan Sultan Ismail to Sentul Timur. Brunei, Indonesia, Malaysia, Philippines, Singapore and Thailand agree to bring forward implementation of AFTA to 2002. Malaysia is 19th largest exporter in world.	

表 1 その3，独立後のマレーシアにおける社会・経済と建築様式の変遷

Age	General	Architecture
1999	Putra LRT becomes fully operational with launching of services from Central Market to Gombak. Euro adopted as the single currency of the European Monetary Union.	 <p>Mohamedan style The Petronas Twin Tower, Kuala Lumpur, 1996 Cesar Pelli & Associates Inc. Reaching a height of 451.9 meters, the Petronas Twin Tower was acknowledged in 1996 as the tallest building in the world by the Council on Tall Buildings and Urban Habitat. It is the most advanced building ever erected in Malaysia, and an icon for the 21st century. 6-p.126</p>  <p>Tropical style The Kuala Lumpur International Airport (KLIA), Sepang, 1998 Kisho Kurokawa</p>

年表参考文献

Materials 1: Ken Yeang 1992 "THE ARCHITECTURE OF MALAYSIA" THE PEPIN PRESS

Materials 2: Pertubuhan Akitek Malaysia Decembr 1987 "POST-MERDEKA ARCHITECTURE MALAYSIA 1957-1987"

Materials 3: Dr Ing (Padua) 1990 "A HISTORY OF MALAYSIAN Architecture" Longman

Materials 4: 加藤祐三 1986 「アジアの都市と建築」 鹿島出版会

Materials 5: GALLERY MA "581 Architecture in the World 世界の建築家581人" TOTO出版

Materials 6: Chen Voon Fee 1998 "THE ENCYCLOPEDIA OF MALAYSIA 5, ARCHITECTURE" ACRHIPELAGO PRESS

3 - 4 . マレーシア独立以降のナショナル
イズムの都市計画への影響

こうしたモハメダニズムやバナキュラリズムの影響は、建築空間のみにとどまらない。手すりや窓廻りの細部意匠から、建物全体の空間構成にそれが導入され、空間スケールの上で拡大してきたように、表現の対象は都市そのものに至っている。ここでは無理な折衷様式にありがちな、意匠的にキッチュに陥る危険性をものともせず、大胆な擬態マレー系農村が都市空間に出現している。

首都クアラルンプールの西部に隣接する衛星都市プタリンジャヤ (Petaling Jaya, 1951年着工) (表2) はマレーシアでの郊外開発のモデル事業と位置付けられた。この計画では、戦後の英国でのニュータウン建設のレイアウトに則って構成されていた。これをきっかけに、特に住宅団地整備においては、モダニズムを基調とした都市開発がマレーシア全土に普及していった。これは独立時の社会的混乱による、都市人口の急増と、スラムやスクオッターなどの劣悪居住地の大量発生への対応による必然性によることもある。効率のよい

宅地開発と住戸配列は経済的合理性を持って高く評価されたのである。

また、住宅団地開発ではマレーシアの居住地において初めて多民族の混合居住が導入されている。従来は民族毎に居住地を形成し緩やかに住み分けを行っていた。これを排し民族融和を促進する目的で、住宅団地では画一的な住空間に住み分けすることなく居住者を入居させるのである。すべての国民に公平なサービスを提供する事が目指されている。

都市計画と同様に国家による巨大開発モデルとしての大学キャンパス建設においても、その傾向を見る事が出来る。マレーシア初のキャンパス計画であるマラヤ大学 (University Malaya, 1951年着工) (表2) では環状道路に接してクラスター状に学部棟が配され、均等な隣棟間隔と均質な校舎建築で構成されている。キャンパスを周回している道路の中心の大講堂はインターナショナルスタイルである。独立へと向けて動き出していたマレーシアにとって、新生国家開発の端緒として捉えられた。

1960年代にはバナキュラリズムの影響を受けた

表2 その1 , 独立後のマレー半島における社会・経済と都市平面計画の変遷




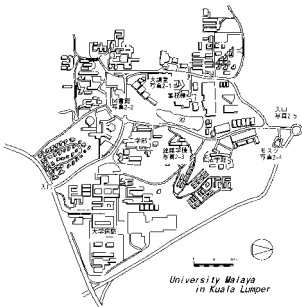


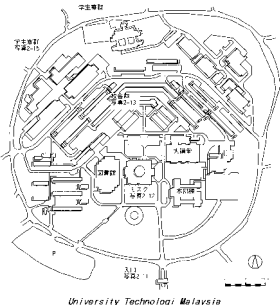




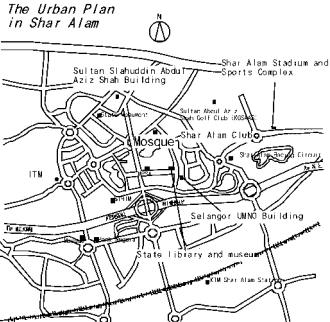

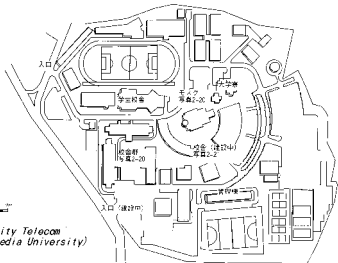


Age	General	Urban Planning
1941	In December 8th, The army of Japan land an east shore of the Malay peninsula. An outbreak of the Pacific War.	  
1942	In February 15th, The army of Japan occupy Malay peninsula, Singapore and North-Borneo.	
1945	Japan unconditionally surrender.	
1946	England announce officially the plan of Malaya Union. But the people of Malay rebel against England. So the plan fail. UMNO (United Malays National Organisation) and MIC (Malaya Indian Congress) organise. The North-Borneo is Colonial of England.	
1948	The Federation of Malaya make a start.	<p>Modern style Petaling Jaya, 1951</p> <p>Petaling Jaya was the first and only new town built in the postwar, pre-Independence period, and it became a model for future new town development in Malaysia. This was the first satellite town designed along proper town planning principles with an infrastructure that emulated new town development in postwar Britain. 1-p.104</p> <hr/> <p>Modern style University Malaya, Kuala Lumpur, 1962</p> <p>An access road in the university premises becomes one-sided passage and it plans to do it for the whole flow to change smoothly. The subject anywhere where each department is arranged around the main road can be equally accessed completely. Its done the being of the big auditorium of being a face in the University Malaya, too, in the center at the road which is orbiting a campus in. The architecture was an important building as the elephant sign which shows a modern arrival for Malaysia which had begun to move to be independent with world war 2 in constructed the 1950s ending.</p> 
1949	MCA (Malaya Chinese Association) organise.	
1953		
1955	The first general election is opened.	
1956	The London negotiation.	 
1957	The Federation of Malaya is completely independent from England. Tengku Abudl Rahman is installed to The First Premier.	
1958	England admit to the autonomy of Singapore.	
1963	Malaya, Singapore, Sabah and Sarawak establish The United states of Malaysia.	
1965	Singapore separate from The United states of Malaysia, and is independent.	<p>Modern Venacular style University Technology Malaya, Kuala Lumpur, 1972</p> <p>It is arranged for the schoolhouse, the big auditorium, the book house, the student hall and so on to surround it around the mosque which is in the top part on the small and high hill and facilities such as the student lodgings, the gym facilities, the hospital are provided for its neighborhood. The small mosque exists in the center of a lot of lodging groups and the religion facilities except Islam don't exist. The road which is doing premises at the trunk line becomes one-sided passage for the flow of the car to become smooth and is accessing cooperation facilities such as the mosque and the book house inside and then a student dormitory district outside from there.</p> 
1967	ASEAN organise.	
1968		
1969	The May 13th Incident.	
1970	Abudl Razak is installed to The Second Premier.	  
1971	The Premier Abudl Razak proclaim The policy of BUMIPUTRA. Malaysia's major trading partners are the EU, Japan, Singapore and US.	
1972	National Front is established.	
1976	Fusein Onn is installed to The Third Premier.	
1977	Asean Preferential Trading Arrangement(PTA), to encourage intra-Asean trade, comes into force.	
1979	Manufacturing is Malaysia's largest export earner, surpassing rubber, plam oil, tin and other commodities.	
1980	Malaysian Export Promtion Centre (MEXPO) set up.	
1981	Mahateel is installed to The Fourth Premier. He proclaim Policy Look East.	
1982	Launching ceremony for first MAS Boeing 747 at Terminal 2, Subang.	

表2 その2 , 独立後のマレー半島における社会・経済と都市平面計画の変遷

Age	General	Urban Planning
1983	Government announces privatisation policy. Private companies allowed to collect toll, construct, operate and maintain new roads, and upgrade existing roads.	<p>Modern Venacular style Shar Alam, 1987</p> <p>The form of the Malay farm village having to do with a tradition, the kampong is imitated by state capital Shar Alam in the Selangor state where the economy growth is the most remarkable in Malaysia. Mainly in the mosque, its neighborhood the plan has public facilities. In this case, in the key word of the state development, it chose Malay having to do with a tradition.</p> <p><i>The Urban Plan in Shar Alam</i></p>  
1984	Bukit Kayu Hitam-Jitra section, first newly-built section of NSE, completed. Opens to traffic a year later. Beginning of venture capital with establishment of Malaysian Ventures Bhd.	
1985	Listing of Malaysian Airlines System, first privatised company to go public.	
1986	Formation of Highway Concessionaires Bhd. Government announces award of NSE concession to UEM.	
1987	Langkawi declared a free port.	
1988	Concession agreement between government and UEM signed. Highway Concessionaires changes name to PLUS, and takes over construction and maintenance of NSE from Malaysian Highway Authority.	<p>Mohamedan style University Telecom, 1987</p> <p>The University Telecom is the first private university in Malaysia. The plane arrangement plan is very interesting. The form of the basis of was constructed when being business but the form of the schoolhouse to be constructing at present as the university is Islam's elephant sign and is the one to have modeled the form of the star and the moon which is used for the ensign in Malaysia, too.</p>  
1989	Asian Pacific Economic Cooperation (APEC) established as informal dialogue group.	
1991	EAEG renamed East Asian Economic Caucus (EAEC)	
1992	SITTDEC headquarters established in Kuala Lumpur. KTM is corporatised, with intent of privatisation later.	
1993	European Community becomes European Union (EU). Merchandise trade is equivalent to 140 percent of Malaysia's GDP, up from 73 percent in 1970.	
1994	Construction of North-South Expressway Central Link and KLIA Expressway begins.	<p>Post Modern style Putrajaya</p> <p>Putrajaya will become Malaysia's new Federal administrative capital and will house the Prime Minister's office, ambassadors' residences and Dataran Putra (People's Square) 1-p.131</p> 
1995	WTO formally established. GATT 1947 comes to an end zone.	
1996	Port Klang's West Port declared a free commercial zone.	
1997	Opening of first integrated barter trade complex in Malaysia in Port Klang.	
1998	Malaysia is 19th largest exporter in world.	
1999	Euro adopted as the single currency of the European Monetary Union. Malaysia partially relaxes exchange control measures by introducing exit tax.	<p>High Technology style Cyberjaya</p> <p>The vision of Cyberjaya promises a modern, ecofriendly centre of information technology development home to the Multimedia University (University Telecom) and Multimedia Super Corridor companies (MSC). 1-p.130</p> 

巨大開発が多く見られるようになる。

マレーシア最大の工科大学マレーシア工科大学 (University Technology Malaysia, 1972年) (表2) のキャンパスは、そのほとんどの建物がモダンバナキュラー建築で構成されている。平面配置計画はモスクを中心とし、その周りには公共の施設が取り囲むという伝統的マレー農村の形態が模されている。

これと同様な手法で都市開発されたのが、マレーシアで最も経済成長が著しいセランゴール州の州都 Shah Alam (表2) である。1981年の州都移転における開発のキーワードとして伝統的なマレーを選択したのである。また平面配置計画においてはモスクを中心に配置している。

マレーシア最初の私立大学であるテレコム大学 (表2) の平面配置計画では、イスラム図像の星と月の形をかたどったものである。

このような大規模な国家開発において、マレー系農村の空間構成を用いたり、モスクと居住地の空間配列を模写する作業が行われている。国民の高度消費社会を支える住宅団地や、ハイテクを担う大学キャンパスなどの、ランドデザインをマレー民族文化やイスラム文化の空間秩序を導入している。これらの計画でも外国人建築家の役割は大きかった。先のマレーシア工科大学キャンパスではオーストラリア人建築家と中国系マレーシア人建築家のチームがマレー村落の空間構成にしたがった校舎群をデザインするのである。

こうしたランドデザインがなされる一方で、中国系やインド系の文化は、独自の空間観でもってマレー文化に再編される都市空間を解釈して、一面的には無関係、並存的に宗教施設を配列している。

4. 忘却された少数者 = 中国系・インド系の建築様式

もちろん数の上で少なくはない中国系・インド系など非マレー系の市民にとっても自民族の文化要素は建築表現の上で無視できない要素である。国民様式としてのマレー建築の浸透とおなじく、他民族にとっても民族様式は大切である。マレーシアの建築研究において中国系建築やインド系建

築の記述は極端に少ない。そもそも、マレーシアに住む中国系市民はすでに移民三世代目にさしかかり、中国系の政治的集団性よりも、マレーシア人としてのアイデンティティーに目覚めつつある。同国の共産党アレルギーが、彼らを意識的に「中国」とのアイデンティティーを否定させていることもある。

しかし実際には中国系には中国系独自の建築様式を持ち、また中心市街地を形成してきた。また、都市の街屋 (英語: Shop House) も中国系独自の文化が反映している。しかし、多くの論考 (Lim 1987) ではこれらの都市居住や都市形成そのものが英国の植民地支配によって成し遂げられたものであるとの記述が先行し、中国系そのものの果たしてきた歴史的足跡は積極的には記述されていない。限られた中国系の居住空間である都市史での記述でも、一面的に過密や混乱の帰結として解釈されている場合も少なくない。逆に、マレーシア建築史では、北部国境地帯におけるタイ建築の影響や、サバ・サラワク州におけるイバン族などの文化的影響への記述が重視され、第二の人口規模を誇る中国系を一つの少数民族の持つ文化として位置づけることで、よりマレー系民族文化による国民文化を際立たせている¹³。



写真14

サリンジャー邸, CSL Associates. マレーハウスの長所を追求し、その廃材などを使って熱帯の気候でも快適であるように設計された。(出典; 建築文化第49巻576号より)



写真15

Menara Mesiniaga, 1992, Subang Jaya, T.R.Hamzah & Yeang Sdn Bhd. 科学的に生活環境と熱帯の自然環境を分析して設計される。ここではケン・ヤンは彼の自説であるバイオクライマティック・スカイクレーパーを提唱している。

5. トロピカル・アーキテクチャー

こうした独立後の混乱期を経ながらも著しい経済成長を遂げた1980年代に入って、気候、生態、文化などに基づいた、個別の民族集団に関係なく共有し享受できる「第三の秩序」を模索する方法が示されはじめた。マレーシアの熱帯気候を独自のアプローチで解説に努めたのである¹⁴。トロピカル建築という概念を確立したジミー・リム (Jimmy Lim) とケン・ヤン (Keng Yeang) である。

トロピカル建築は、マレー系の伝統的な村落の環境維持システムを理解し応用しようとしたジミー・リムと、データ解析に基づく熱帯環境と人工物の調和を目指したケン・ヤンによって提唱された。2人は中国系マレーシア人である。マレーシアにこれまでにみられたコロニアルスタイル、モダンスタイル、民族建築、イスラム建築は、ジミー・リムとケン・ヤンにとっては、克服すべき対象として理解している。ジミー・リムのバナキュラーな形象とケン・ヤンのハイテクモダンな形象とでは、切り開かれる表現の方向性が異なるも

の、その一方、基本的なコンセプトには共通項が見い出される。都市化による環境破壊への批判、持続可能な設計方法の探究が重視されている。これまでのジミー・リムの作品の多くは、木造住宅 (写真14) やリゾートホテルにある。マレーシアの熱帯気候、周辺環境の気候条件を配慮して、より快適な居住環境を生み出すような通風、採光を調節する建築空間を設計し、軽やかな木造の屋根や複雑な庇の木組みによって強い日射を遮っている。マレー農村で身近に見られる民族建築の形態の安易な引用ではなく、熱帯気候などのエコロジーに注目することで、しばしば州や国家を超えたアジア人としての地域的独自性を表現しつつある。一方ケン・ヤンは、環境の調整に必要な条件とその解決方法について科学的に解析を行う姿勢を重視している。彼にとって高層オフィスビルは、人間の生活環境と熱帯の自然環境の結びつきをより持続可能なものへと構築するための装置として認識される。広い垂直面や最上階の熱量取得による負荷の緩和のために、ビル全体を植栽や樹木でおおう構想を練り、多くの吹き抜け空間や開口部を精微な流体力学的に設定することで、建物内で熱された空気の逃し方や循環する熱エネルギーシステムの最適な効率を提案し建築物に反映させた。彼の代表作のひとつである Menara Mesiniaga (1992) (写真15) においては、彼の提唱するバイオクライマティック・スカイクレーパーのひとつとして熱帯気候に相応しい高層ビルのあり方を探究した。

両者に共通する点は、従前のモハメダンやモダンバナキュラーで目指されてきた、マレー民族文化やイスラム文化の建築意匠の表層性を一切排し、意匠要素の安易なつなぎ合わせを避けている。これはマレーシアにおける民家建築や伝統的集落の解説そのものが過分にナショナリズムの伸張と同義化したからでもあろう。より普遍的な村落空間の構成要素である気候特性に着目しマレーシアの建築にたえず関係してきたナショナリズムを排除する意図が指摘できる。

6. 多民族の都市空間を目指して

現在のマレーシアの都市空間、建築空間はコロ

ニアル, モダン, モダンバナキュラー, モハメダン等の建築スタイルを経て形成された。個々の建築様式の表現は独立以降の時代的要請であったナショナリズムに翻弄されつつ都市空間を形成し続けた。

1999年7月8日, マレーシアの首都クアラルンプールの近郊に, 巨大なハイテク情報都市「サイバージャヤ」がオープンした。それは, マレーシアが国家プロジェクトとして進めている新首都建設計画「マルチメディア・スーパーコリドー計画」(MSC)の一部である。サイバージャヤ(表2)の都市景観においては, 可視化されない「情報」を, ハイテクという建築スタイルで表現することが目指されている。ここでは前項のケン・ヤンら現代建築家たちの提唱する自然的調和が基本的なグランドデザインに据えられている。

マレーシアでは, これまで独立直後の混乱を回避し国土建設を達成する目的で, 国民文化の制定を急ぐ必要があった。しかし現在の著しい経済成長は民族文化に関係なく享受できるスポーツや西欧文化の流入など新しい生活様式を生みつつあり, これが新しい民族間の関係を生成しつつある。またハイテク分野の社会浸透は民族間の関係を変化させつつある。

しかし, これらの多くが高度消費社会化への進捗と同義であることもあり, 逆に民族文化衰退の一因になっている。社会変動の中で個々の民族文化の持つ固有性を位置づけ, 民族に関係なく共感できる生活様式や交流の方法を豊富化し展開する必要がある。その上にマレーシアの国民様式としての多民族建築を位置づける必要がある。

独立以降のマレーシアの建築デザインは, 西洋社会のもたらしたモダニズムにつよい影響を受けつつ, 個々の民族文化の文化要素がキーワードとなってきた。その後の1970年代に多く見られるモハメダン建築などでは国民文化政策の影響を受け, 非マレー系も, 自ずと観察の対象が自らの民族文化の要素に注目することになった。

しかし, いずれも文化的混交の成果である多民族社会としてのマレーシア社会全体を記述の対象として捉えられることが少なかった。

これまでのマレーシアの建築研究では民族混交の歴史としての都市空間の成立が記述されなかつ

た。また建築表現でも, 個別の建築物の空間要素に観察の重点が置かれた。しかし, 全ての建築様式が個別の民族集団, もしくは英国に源流を持つ近代建築の軸の上に記述されるにとどまり, クロス・カルチャルな文化的混交過程 = マレーシアの歴史にシンクロすることはなく, 国民全てが共感できる仕掛けに乏しい。マレーシアの都市空間そのものは洋の東西, 多様な民族の足跡の上に成立したものである。都市そのものが有機体として多元文化を受け止め現在の都市が成立している。その意味で多民族社会における国民統合を展望するものとして, いま一度, 多民族混交の成果としての都市空間の形成過程に注目する必要がある。

注記

- ¹ 社会階層, 民族集団に分断されるマレーシアでの国民形成の困難さを指摘している。Syed Husin Ali edited (1984), *Kaum, kelas dan pembangunan Malaysia*, : 所収『マレーシア～多民族社会の構造』井村文化事業社, 頸草書房 pp.vii ~
- ² ブミブトラ [土地の子] 政策とは, マレー系住民の特権(憲法153条に定義),(公務員への採用, 教育・奨学金の優遇, ライセンス取得上の優遇), 国語としてのマレー語, 公用語指定, スルタンの地位, 非マレー系の市民権とこれの討論の禁止...が定められた。
- ³ *Malaya* = マラヤ, *Malayu* = マラユと呼ばれる語には, 本来, 現在本論で用いている *Malay* = マレーの意味があり, 前者は本来のマレーを指す語彙で, 後者は英語表記で現在マレー語としても広く用いられていることから本論では「マレー」の語を用いている。
- ⁴ Khoo Kay Kim (1991), *Malay Society, Transformation and Democratisation*, Pelanduk Publications pp.280 ~
- ⁵ Mahathir bin Mohamad (1970) “The Malay Dilemma” *Times Book International*: 和訳は高多理吉が頸草書房で発刊されている。1969年の暴動の直前の総選挙で大敗し, UMNOから除名された筆者が同国ではタブーの民族問題に正面から取り組んだ問題作。発行直後, 発禁処分と

なっている。

- ⁶ Ta Chen (1937), Relation of southeast asian Chinese with Fukien and Kwangtung communities , The commercial press
- ⁷ Parid Wardi Sudin et al. (1983), Architecture and Identity, Concept Media Pte Ltd, Singapore
- ⁸ Majint S. Sidhu & Gavin W. Jones (1981) "Population dynamics in a plural society: Peninsular Malaysia" UMCB publications
- ⁹ 小田勝利, 山村悦夫 (1987) 『マレーシアにおける計画農村の開発と入植者の社会的適応 ~ フェルダ農村の現地調査に基づいて』都市計画学術研究論文集22号151~, 1986 『マレーシアにおけるFELDA開発地域の人口居住環境調査(主査: 山村悦夫)』文部省科研(海外学術研究)報告
- ¹⁰ James V. Jesudason は, マレーシアにおける民族間の経済格差を就業属性の違いをプランテーション経済に注目して分析している。James V. Jesudason (1989), Ethnicity and economy: The state, Business, and multinationals in Malaysia, Oxford Univ. press
- ¹¹ Chan chee Yoong は独立期以降のモハメダン建築の成立過程を国民文化政策の関係で論じている。Chan chee Yoong, et al. (1987), "Mohamedan Architecture, After independence of Malaysia, POST-MERDEKA ARCHITECTURE MALAYSIA 1957-1987", Pertubuhan Akitek Malaysia, pp.15-25
- ¹² Mohamad Tajuddin Mohamad Rasdi は, モスクの成立過程に注目しつつ, デザインの解析を行うとともに, コミュニティーの象徴としてのモスクの役割を論じている。Mohamad Tajuddin Mohamad Rasdi (1999), The Implications of a New Mosque Curriculum on the Design of Mosques As a Community Development Centre, Proceeding of the Symposium on Mosque Architecture, vol 8, College of Architecture and Planning-King Saud University -Riyadh-Saudi Arabia (1419H-1999)
- ¹³ Amran Abudul Raaman らは, マレーシアにおけるモダン建築の役割を国土開発との関係で分析している。Amran Abudul Raaman, Mustapha Mohd Salleh, Makhtar Abd. Rahman (1991), Post war architectural Development, J'nal urban design

1991, Mara Institute of tech.

- ¹⁴ 熱帯環境と近代都市に関しては多くの考察がなされている。John F. Halldane (1993), High rise vernacular defend in images of people, place, environment, technology & economy, I'nal conf. Tall buildings. など多くの論考が存在する。

参考文献

- [1] GALLERY MA (1995) 『 581 Architects in the world 世界の建築家581人 』 TOTO出版
- [2] 村松伸 (1999) 『 アジア建築研究 トランスアーキテクチャー / トランスアーバニズム 』 INAX出版
- [3] 加藤祐三 (1986) 『 アジアの都市と建築 』 鹿島出版会
- [4] Chen Voon Fee (1998), THE ENCYCLOPEDIA OF MALAYSIA 5, ARCHITECTURE, ACRHIP-ELAGO PRESS
- [5] Keng Yeang (1992), THE ARCHITECTURE OF MALAYSIA, THE PEPIN PRESS
- [6] Lim Jee Yuan (1987), THE MALAY HOUSE, INSTITUT MASYARAKAT
- [7] Chan chee Yoong, et al. (1987), POST-MERDEKA ARCHITECTURE MALAYSIA 1957-1987, Pertubuhan Akitek Malaysia
- [8] Dr Ing Padua (1990), A HISTORY OF MALAYSIAN Architecture, Longman
- [9] Norman Edwards & Peter Keys (1988), SINGAPORE A GUIDE TO BUILDINGS, STREETS, PLACES, TIMES
- [10] Ong Teng Cheong (1998), COMTEMPORARY SINGAPORE ARCHITECTURE, SINGAPORE INSITITUTE OF ARCHITECTS
- [11] C. K. Taso (1998), DIALOGUE 建築, 8月号, 秋陽文化

Abstract

Formation Process of Malaysian Modern Architecture under Influence of Nationalism.

Yushi UTAKA

Research Associate, Faculty of Engineering,
Hiroshima University, Higashi-Hiroshima, 739-8527, Japan
E-mail: utaka@hiroshima-u.ac.jp

Daichi YAMASAKI

Graduate School of Engineering,
Hiroshima University, Higashi-Hiroshima, 739-8527, Japan
E-mail: daichi28@hiroshima-u.ac.jp

This paper examines the Formation Process of Malaysian Modern Architecture under Influence of Nationalism, through the process of independence of Malaysia. The national style as "Malaysian national architecture" which has engaged on background of political environment under the post colonial situation. Malaysian urban design is also determined under the balance of both of ethnic culture and the national culture. In Malaysia, they decided to choose the Malay ethnic culture as the national culture. Mohamedan is one of the architectural style which created the kind of Malaysian modern architecture under the influence of Islamic concept. And, many of Malay influenced architecture have built that has focused to Malay rural village form and house. And it has reflected for the urban design, public facilities and the new town development. But, such a way of design was difficult to create the common value from other ethnic groups. On the other hands, The drastic economical growth has changed for ethnic living culture, so it is important to create the national identity on visual environment like an urban landscape. Each ethnic group has tried to conserve their culture by their own. But there is no historical background that shared by the ethnic groups. Recently, "Tropical" and "Hi-Tech" are become important key words on the architectural design to share the core value between different ethnic groups. And, these words are regarded as effective way to create the new trends of development.